

株式会社 **サカタのタネ**

第2四半期決算説明資料 – 2023年5月期

2023年1月23日



I	2023年5月期 第2四半期決算の概要	3~15
II	2023年5月期 通期予想および配当政策	16~21
III	グローバルな成長に向けた取り組み	22~39
IV	2023年5月期 第2四半期 資料集	40~44

I 2023年5月期 第2四半期決算の概要

本資料で使用している決算数字は単位未満を四捨五入しており
決算短信とは一部数字が異なりますのでご了解ください

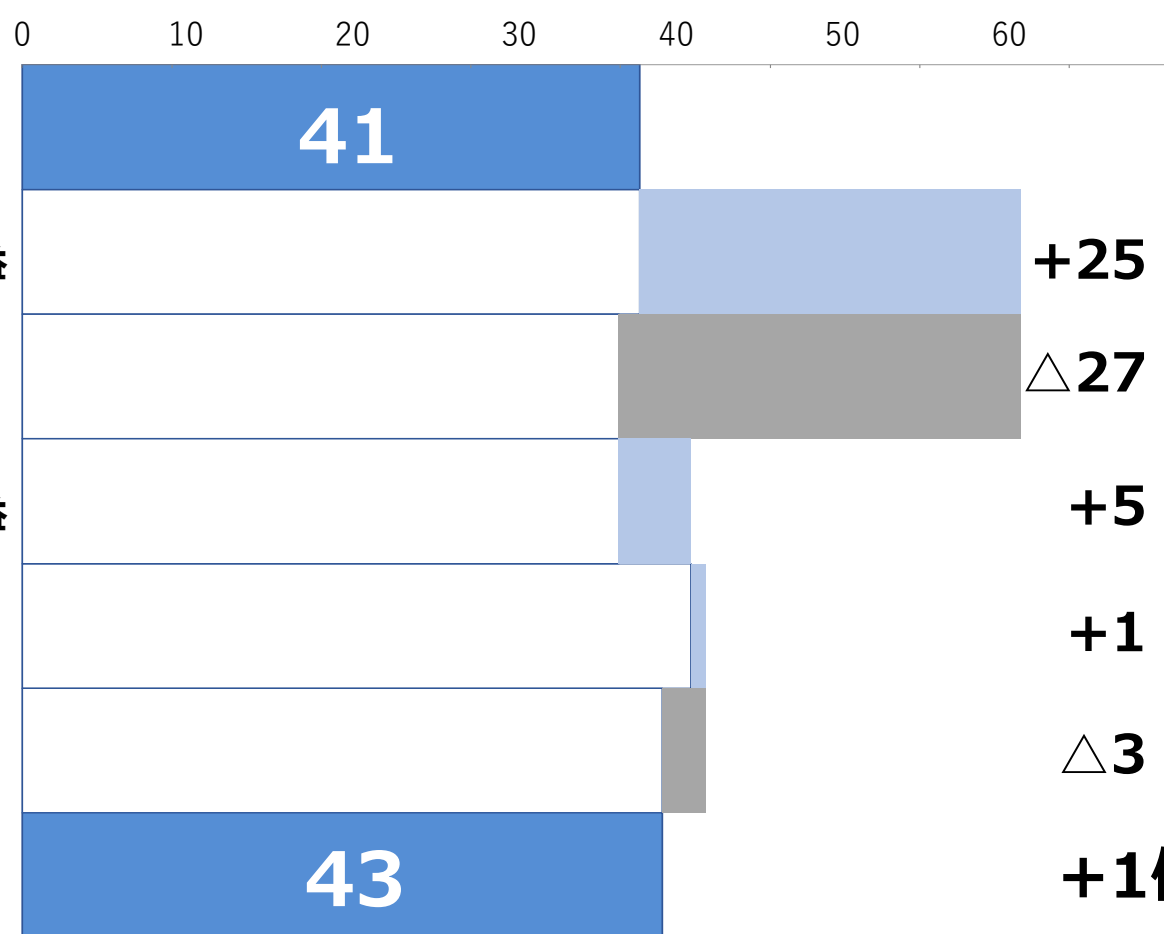
前期比で増収,業績予想比では上振れ

単位：億円

	21/11月	22/11月	増減額	増減率	22/7月公表 予想
売上高	327	380	53	16.2%	376(+4)
売上総利益	204	230	25	12.5%	-
売上総利益率 (%)	62.5%	60.5%	-	-	-
研究開発費	37	48	11	28.6%	-
売上高比率 (%)	11.3%	12.6%	-	-	-
その他販管費	110	127	16	14.7%	-
営業利益	57	56	△1	△2.4%	54(+2)
経常利益	62	65	3	5.6%	58(+7)
当期純利益	41	43	1	3.6%	40(+3)
海外子会社換算レート					
米ドルレート(円)	112	145	+33	為替影響 +46億円	133(+12)
ユーロレート(円)	130	142	+12		140(+2)

増収により売上総利益が増加, 販管費も増加

単位：億円



純利益変動の主要因

増収により増加
利益率は低下

為替変動により増加
人件費や旅費交通費などの増加

為替差益など

+1億円

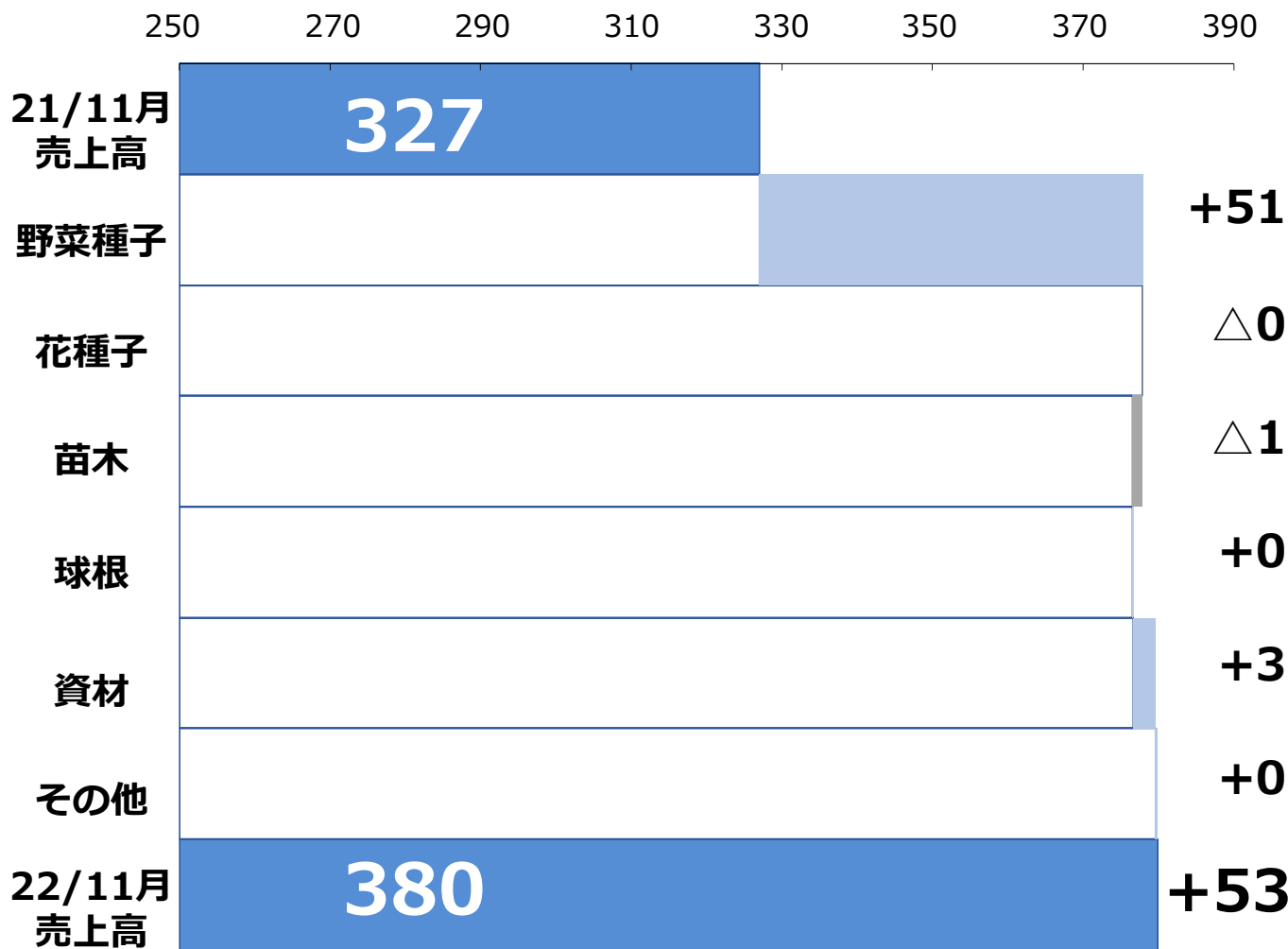
海外卸売が業績をけん引

単位：億円

	売上高				営業利益			
	21/11	22/11	増減	増減率	21/11	22/11	増減	増減率
国内卸売	63	61	△ 2	△2.6%	26	26	△ 0	△0.3%
海外卸売	229	280	51	22.2%	80	81	1	0.9%
小売	20	22	2	11.8%	△ 0	△ 1	△ 0	—
その他事業	16	17	1	8.2%	1	1	0	15.9%
小計	327	380	53	16.2%	106	107	0	0.5%
消去	—	—	—	—	△ 49	△ 51	△ 2	—
連結	327	380	53	16.2%	57	56	△ 1	△2.4%

野菜が大幅増,花は微減

単位：億円



売上高変動の主要因

為替の影響
ペッパー、レタスなどが増加

前期の反動でヒマワリなどが減少

品薄懸念からの前倒し需要
量販店向け帳合替えなど

+53億円

欧州・中近東を除き,実質ベースで増収

単位：億円

300 320 340 360 380

21/11月
売上高

327

日本

+2

資材,造園分野などが増収

北中米

+20 (為替+18)

野菜が増収

欧州・中近東

+3 (為替 +6)

野菜,花とも実質減収

南米

+8 (為替 +6)

野菜,花ともに増収

アジア

+17 (為替+14)

野菜が増収

その他

+3 (為替 +2)

22/11月
売上高

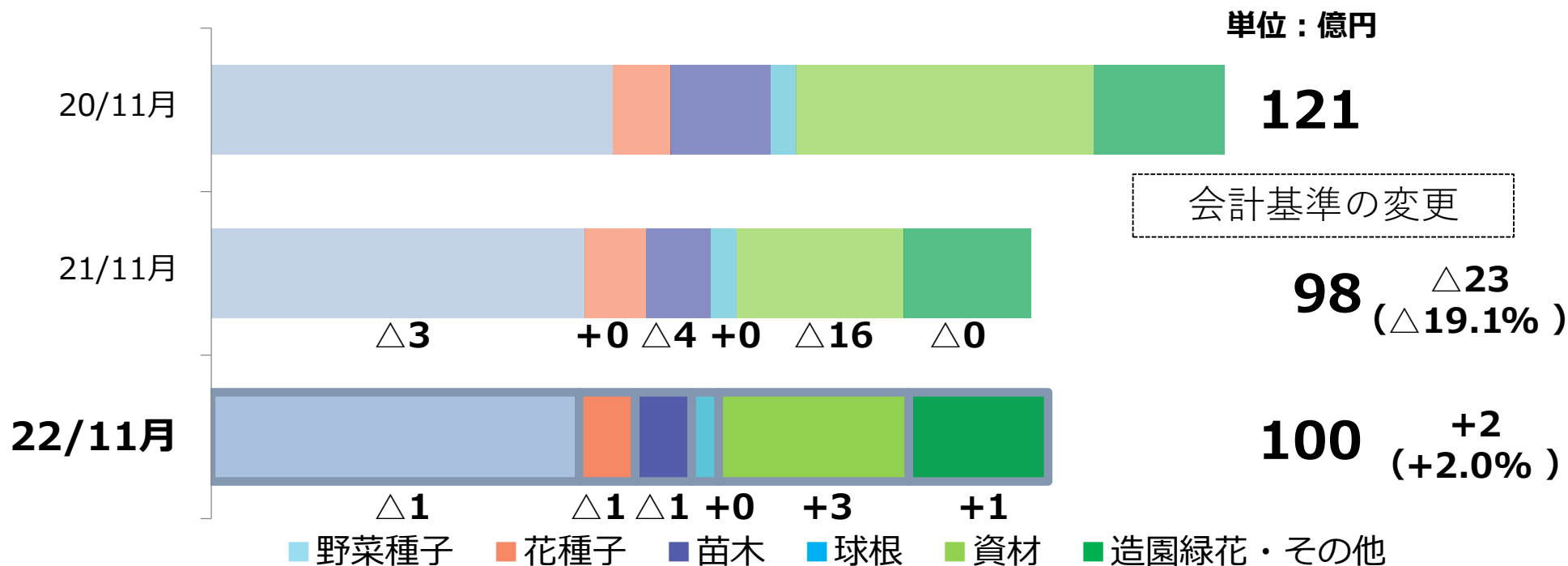
380

+53億円

為替影響
46億円

売上高変動の主要因

野菜,花は減少も,資材,造園緑花が増加



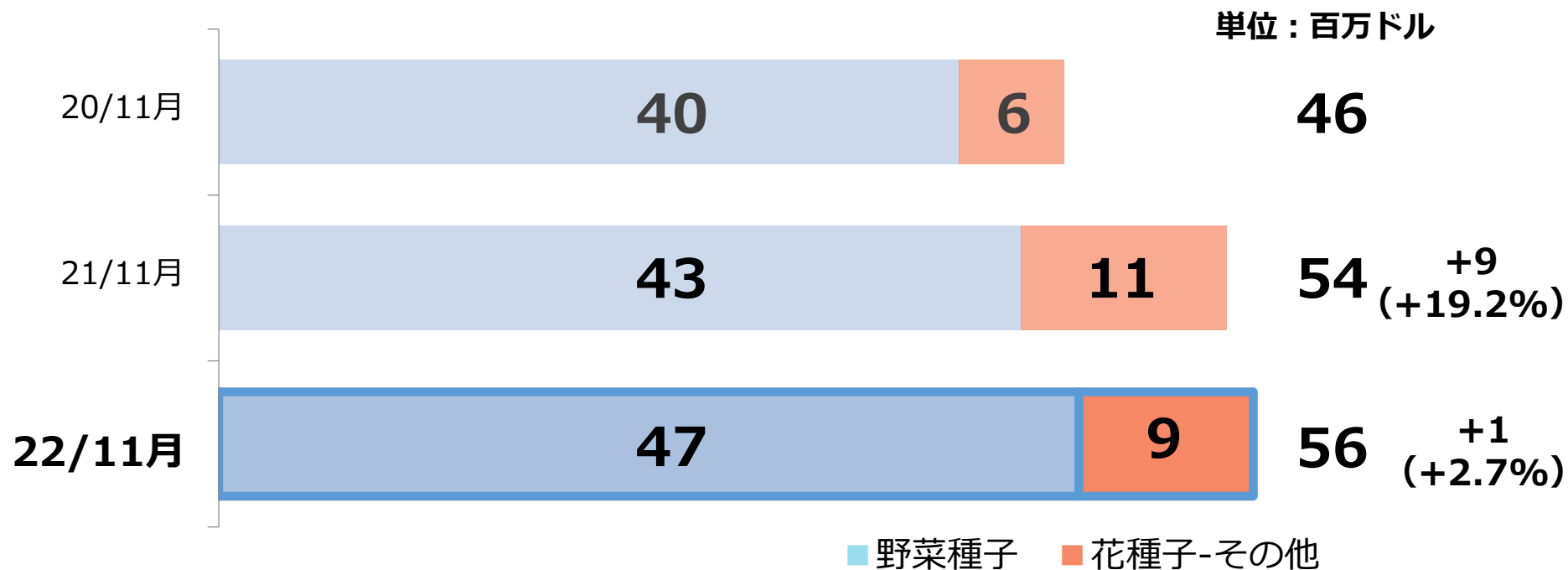
2020/11月・2021/11月 変動額上位品目

野菜種子：	トマト	△0.6
	トウモロコシ	△0.4
	レタス	+0.3
花種子：	パンジー	+0.5

2021/11月・2022/11月 変動額上位品目

野菜種子：	ハウレンソウ	△0.6
	ネギ	△0.5
	トマト	+0.5
花種子：	パンジー	△0.1

野菜は増収,花は減収



2020/11月・2021/11月 変動額上位品目

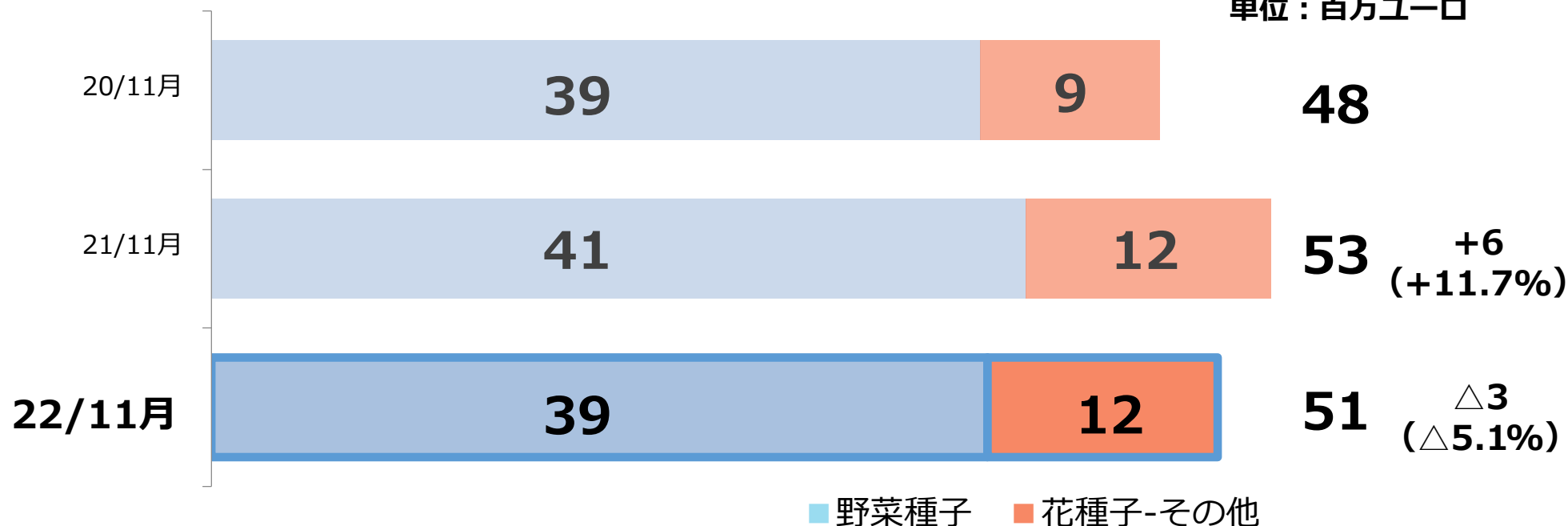
野菜種子：	ペッパー	+1.0
	ブロッコリー	+0.8
	レタス	+0.6
花種子：	ヒマワリ	+1.6

2021/11月・2022/11月 変動額上位品目

野菜種子：	ペッパー	+2.1
	トマト	+0.8
	ハウレンソウ	+0.4
花種子：	ヒマワリ	△0.5

野菜,花ともに減収

単位：百万ユーロ



2020/11月・2021/11月 変動額上位品目

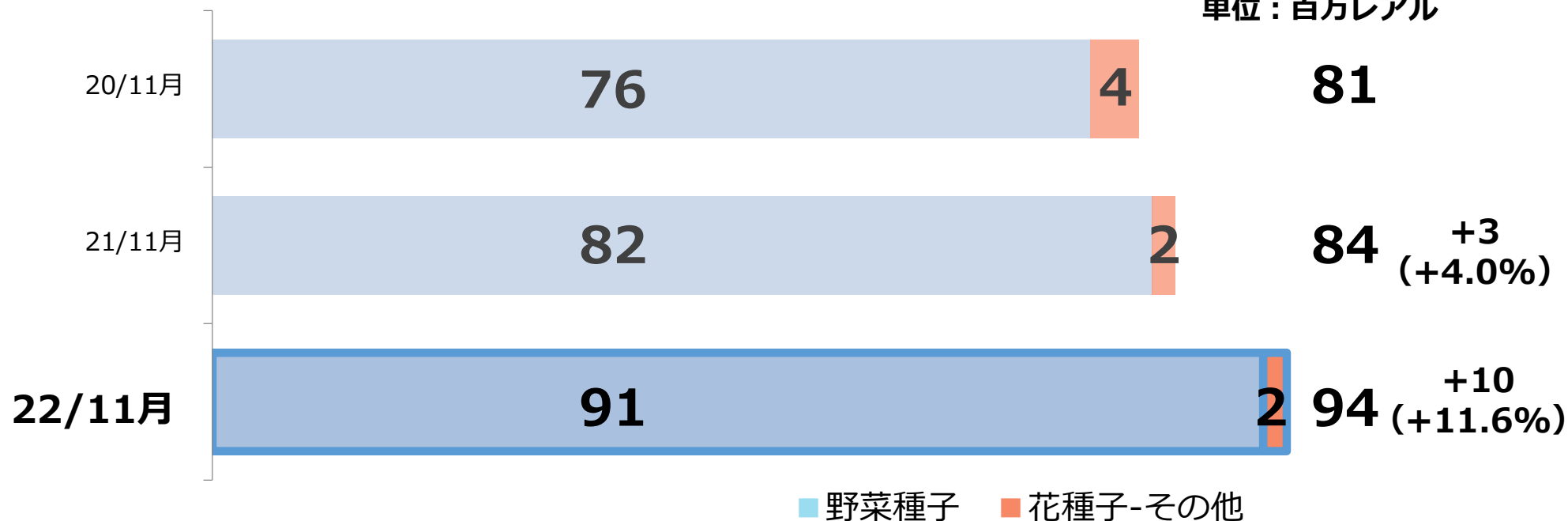
野菜種子：	ブロッコリー	+1.7
	カボチャ	+1.0
	ペッパー	+0.7
花種子：	トルコギキョウ	+1.4

2021/11月・2022/11月 変動額上位品目

野菜種子：	トマト	△2.2
	キュウリ	+0.6
	メロン	△0.4
花種子：	トルコギキョウ	△0.6

野菜が引き続き好調で大幅増収

単位：百万リアル



2020/11月・2021/11月 変動額上位品目

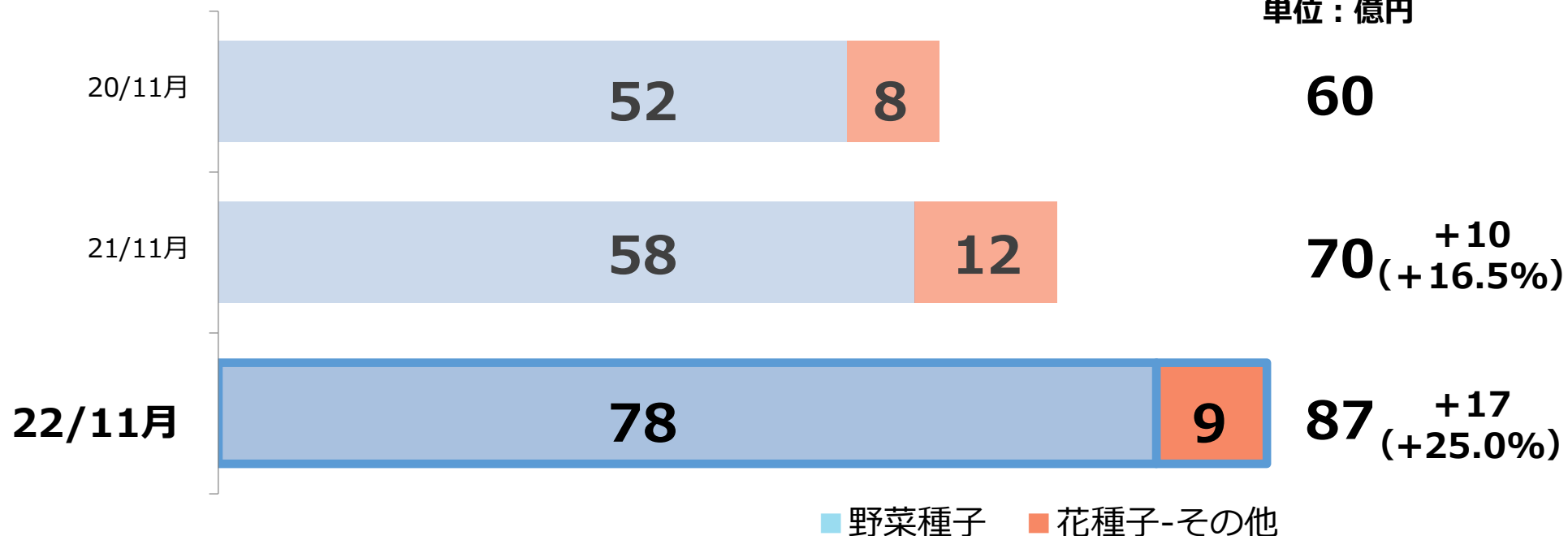
野菜種子：	ブロッコリー	+1.4
	カボチャ	+1.2
	スイカ	+1.1
花種子：	ヒマワリ	+0.9

2021/11月・2022/11月 変動額上位品目

野菜種子：	メロン	△4.2
	カボチャ	+3.4
	レタス	+2.5
花種子：	トルコギキョウ	+0.3

野菜が好調, 為替の影響で大幅増収

単位：億円



2020/11月・2021/11月 変動額上位品目

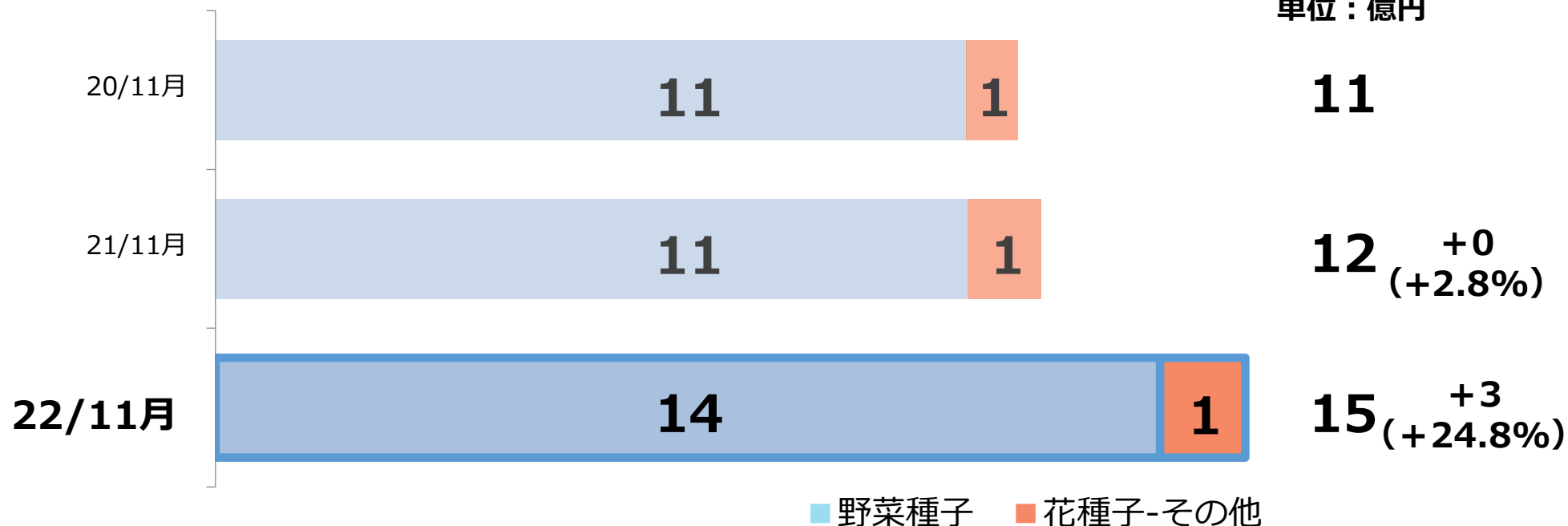
野菜種子：	ニンジン	+2.7
	ペッパー	+1.1
	ブロッコリー	+0.5
花種子：	ヒマワリ	+4.7

2021/11月・2022/11月 変動額上位品目

野菜種子：	ニンジン	+5.5
	ブロッコリー	+4.1
	ネギ	+2.6
花種子：	ヒマワリ	△1.8

為替の影響により増収

単位：億円



2020/11月・2021/11月 変動額上位品目

野菜種子：	ブロッコリー	+0.2
	キャベツ	△0.2
	タマネギ	△0.2

2021/11月・2022/11月 変動額上位品目

野菜種子：	ブロッコリー	+0.7
	カボチャ	+0.3
	タマネギ	+0.3

海外の人件費や研究開発費,旅費交通費などが増加

単位：億円（内訳は、本社および主要子会社の所在地ベース）

		販管費	人件費	旅費交通費	減価償却費	研究開発費*
2022年11月	実績	174	91	6	15	48
2021年11月	実績	147	79	3	12	37
前期比増減		27	12	3	3	11
うち為替変動による影響額		20	9	1	1	5
内 訳	日本	3	△0	1	0	1
	北中米	12	5	1	1	4
	欧州・中近東	6	3	1	1	4
	南米	4	2	0	0	1
	その他+連結調整	2	2	0	1	1

*研究開発費は、研究活動に関わる経費の合計としており、人件費と減価償却費の一部が重複した数字となっております。

Ⅱ 2023年5月期

通期予想および配当政策

通期予想は修正せず

	21/5月期	22/5月期	予想	増減額	増減率
総売上高（旧基準）※1	692			-	-
売上高（新基準）※1	-	730	780	50	6.8%
売上総利益	386	439	472	33	7.5%
売上総利益率（%）	55.7%	60.1%	60.6%	-	-
研究開発費	70	81	87	5	6.4%
売上高比率（%）	10.1%	11.1%	11.8%	-	-
その他販管費	218	246	272	26	10.6%
営業利益	97	112	113	1	1.1%
経常利益	101	121	118	△3	△2.6%
当期純利益	76	123	85	△38	△30.6%
海外子会社換算レート※2					
米ドルレート(円)	111	122	133	為替の感応度の試算※3（百万円）	
ユーロレート(円)	130	137	140	米ドル	59
				ユーロ	12

※1 2022年5月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。

※2 海外子会社（3月期）換算レート

※3 1円の為替変動による年間の営業利益の影響額

地域間の入り繰りあるもトータルの売上高は不変

単位：億円

770

775

780

22/5月期
当初予想

780

日本

△0

北中米

+0 (為替±0)

欧州・中近東

△2 (為替±0)

南米

+1 (為替+0)

アジア

+2 (為替△2)

その他

△1 (為替+0)

23/5月期
最新予想

780

±0億円

売上高変動の主要因

上半期の実績を踏まえ下方修正

野菜,花とも当初予想比好調

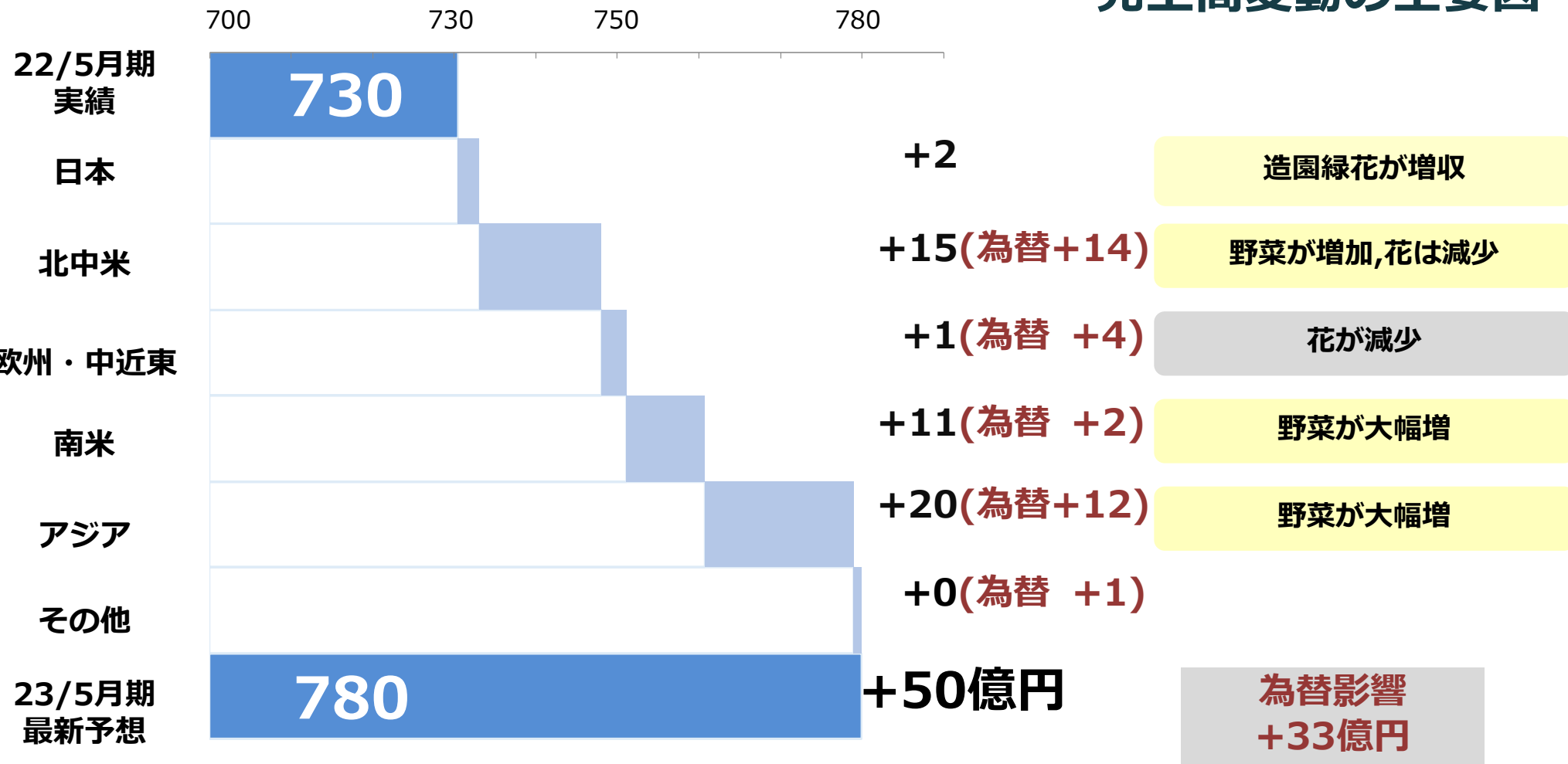
野菜,花とも当初予想比好調

為替影響
△2億円

野菜の増加や為替影響などにより増収を見込む

単位：億円

売上高変動の主要因



地域間の入り繰りあるも総額は期初予想からの変更なし

単位：億円

(内訳は、本社および主要子会社の所在地ベース)

		当初予想比		前期実績比	
2023年5月 最新予想		359		359	
2023年5月当初予想／2022年5月実績		359		327	
増 減		0	(△1)	32	(11)
内 訳	日本	2	(0)	17	(0)
	北中米	0	(0)	14	(7)
	欧州・中近東	1	(0)	12	(3)
	南米	△1	(0)	3	(1)
	その他+連結調整	△1	(0)	△ 15	(1)

() 内の数字は為替の影響額

中間配当は20円を決議, 期末配当は30円を予想

当社は、株主への利益還元を経営の重要課題と考え、安定的、継続的な利益配分を行うことを基本方針としております。

① 「中間配当」 1株あたり20円

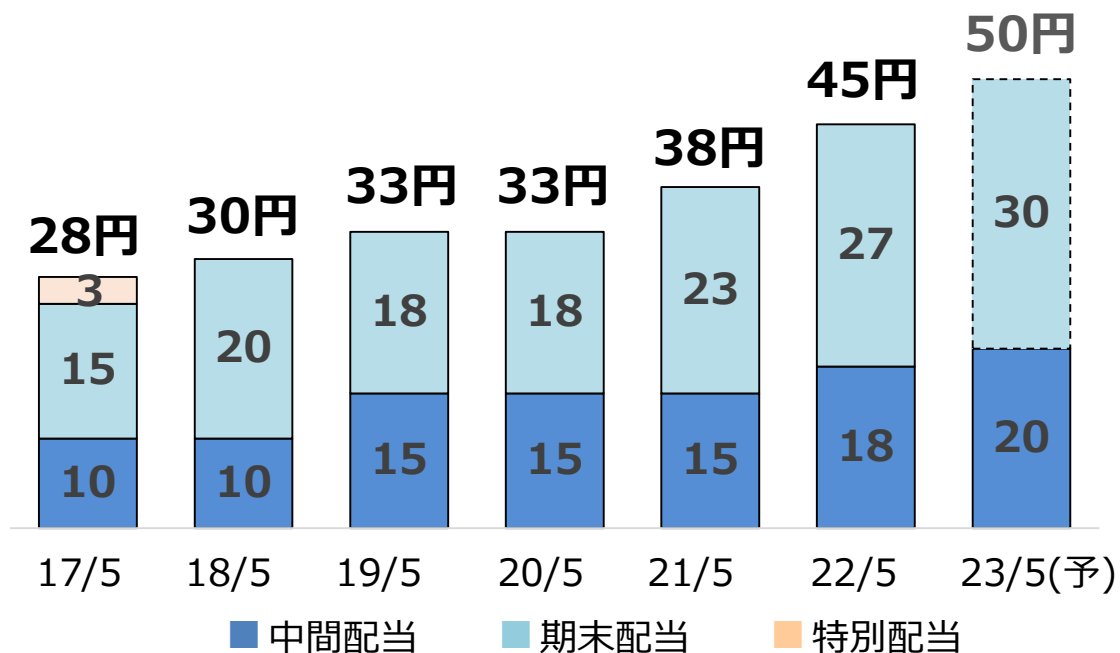
(前期比+2円)

② 「期末配当」 1株あたり30円

(前期比+3円)

を予定

当初予想から変更なし

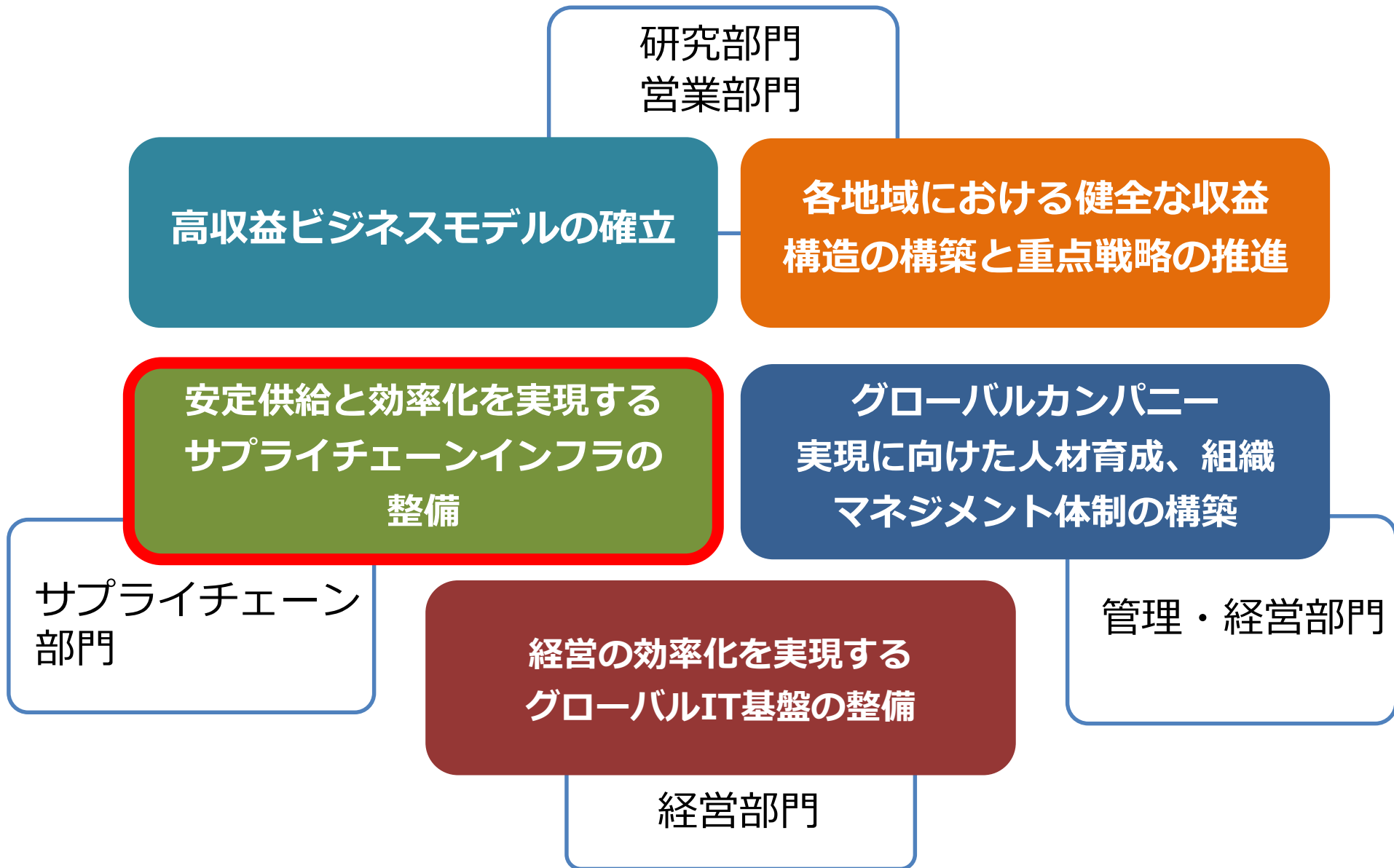


Ⅲ グローバルな成長に向けた取り組み

新たな成長を支える種子生産

- 1 当社グループの成長戦略**
- 2 種子生産の概要と特徴**
- 3 当社の体制と施策、強み**

1 当社グループの成長戦略



研究開発：
新品種の開発



サプライチェーン部門

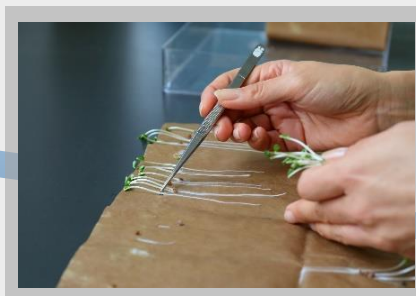
販売品種の種子を営業に供給するため生産、品質検査などを行い総合的な調達を行う



種子生産



精選



品質検査



加工・発送

生産者・消費者



営業 種子の販売

新たな成長を支える種子生産

- 1 当社グループの成長戦略
- 2 **種子生産の概要と特徴**
- 3 当社の体制と施策、強み

2 種子生産の概要と特徴

種子を収穫するまで

播種



登熟・
収穫



栽培



開花・
結実



植物の一生を通じて種子が生産される

1 適地適作

適地適作（作物に適した環境の確保）は高品質で安定的な種子生産の第一歩

- 原則として原産地の気候がもっともよく育つ
- 温度、湿度、日長などを含め条件が合う場所は非常に限られている



左からオクラ、シュンギク、ヒマワリの採種圃場。植物に合わせて採種する国や地域が異なる

世界的に種子生産の「適地」は限られている

2 高い専門性と栽培技術

受粉方法



ミツバチを利用した受粉
アブラナ科、
ニンジン、ヒ
マワリなど



手交配による受粉
果菜類、
花など

F1種子の採種

アブラナ科の採種の様子。
雄親と雌親を畝（うね）を分けて栽培
し、花の咲くタイミングを合わせる

キャベツの開花調整



株の仕立て方や交配方法など経験とノウハウが必要

2 種子生産の概要と特徴

種子生産 野菜の花々

ブロッコリー



ニンジン



ゴボウ



昆虫による受粉



トマト

手交配での受粉



スイートコーン

風による受粉

3 天候の影響

- 露地栽培が多く、自然災害の影響を受けやすい



**地球温暖化、異常気象が多発する中、
その影響をいかに緩和していくかが課題**

新たな成長を支える種子生産

- 1 当社グループの成長戦略
- 2 種子生産の概要と特徴
- 3 当社の体制と施策、強み

**安定供給と効率化を実現する
サプライチェーンインフラの整備**

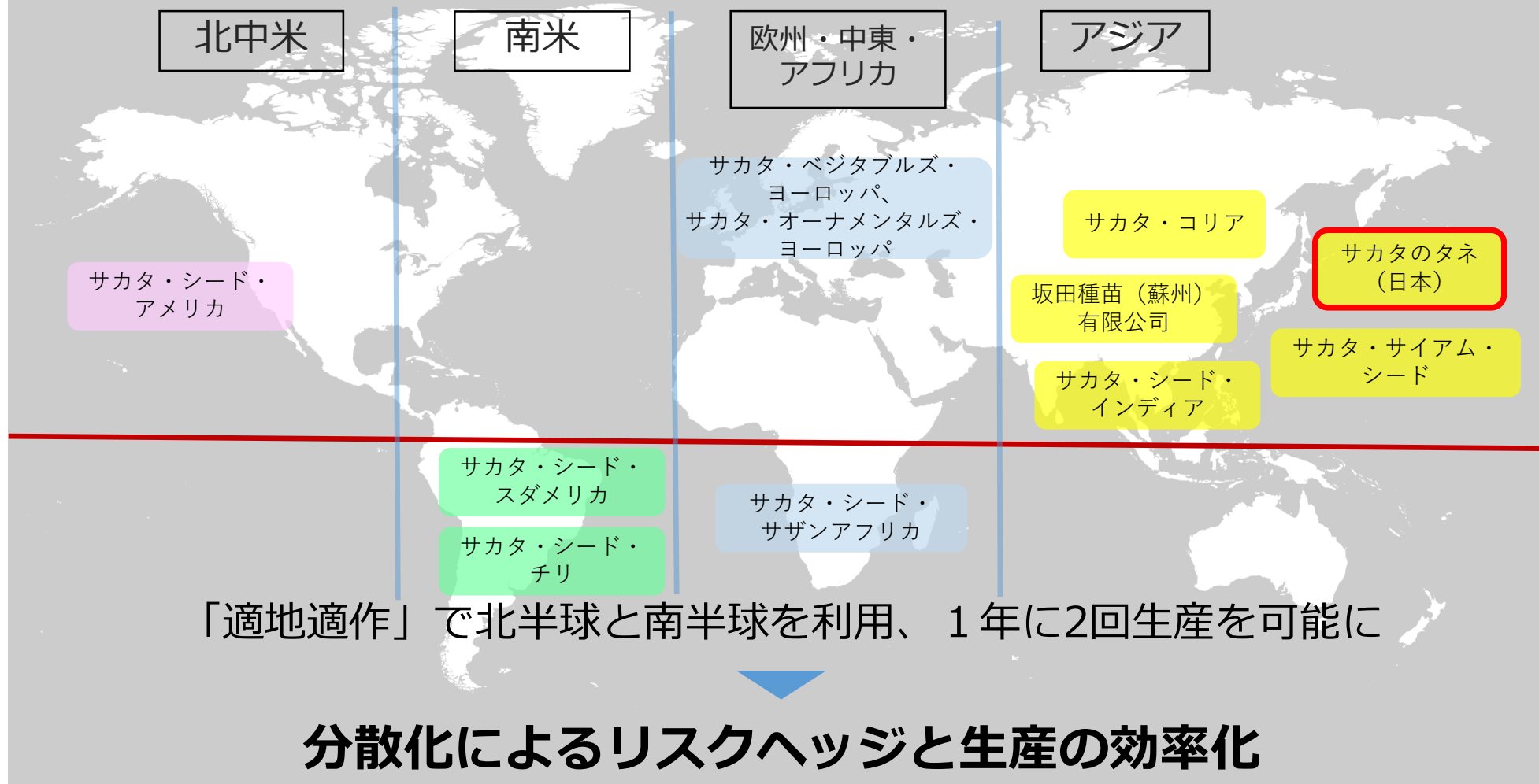


**種子の安定供給を実現するために
生産体制・生産技術などの機能を強化**

生産体制・技術・機能の強化

1 グローバル生産体制の充実

拠点を南北半球、各地域に分散



生産体制・技術・機能の強化

2 新拠点の設立と機能強化

近年に新設した大型倉庫



南アフリカ (2018)



フランス (2022)



チリ(2022)

種子加工や品質管理機能も付帯、物流の効率化やスムーズな製品化をサポート

さらなる分散体制の強化、スピーディーな物流体制を両立

グローバルな物流網が停滞しても各地域で供給が可能

生産体制・技術・機能の強化

3 管理体制 自前主義/現地主義

1 種子生産者との直接契約

- 信頼関係の構築、関係性の強化
- 知財やノウハウの流出防止



2 自社スタッフによる圃場の管理

- 自社品種の特性を熟知、毎年の天候の差異など不確実性に細やかな対応

現地を重視し、戦略品目を中心に自社で管理

生産体制・技術・機能の強化

4 人材育成と技術の継承



1 技術の共有、均一化

- 栽培マニュアルやノウハウを拠点間で共有
- 品質重視、基準を目合わせ

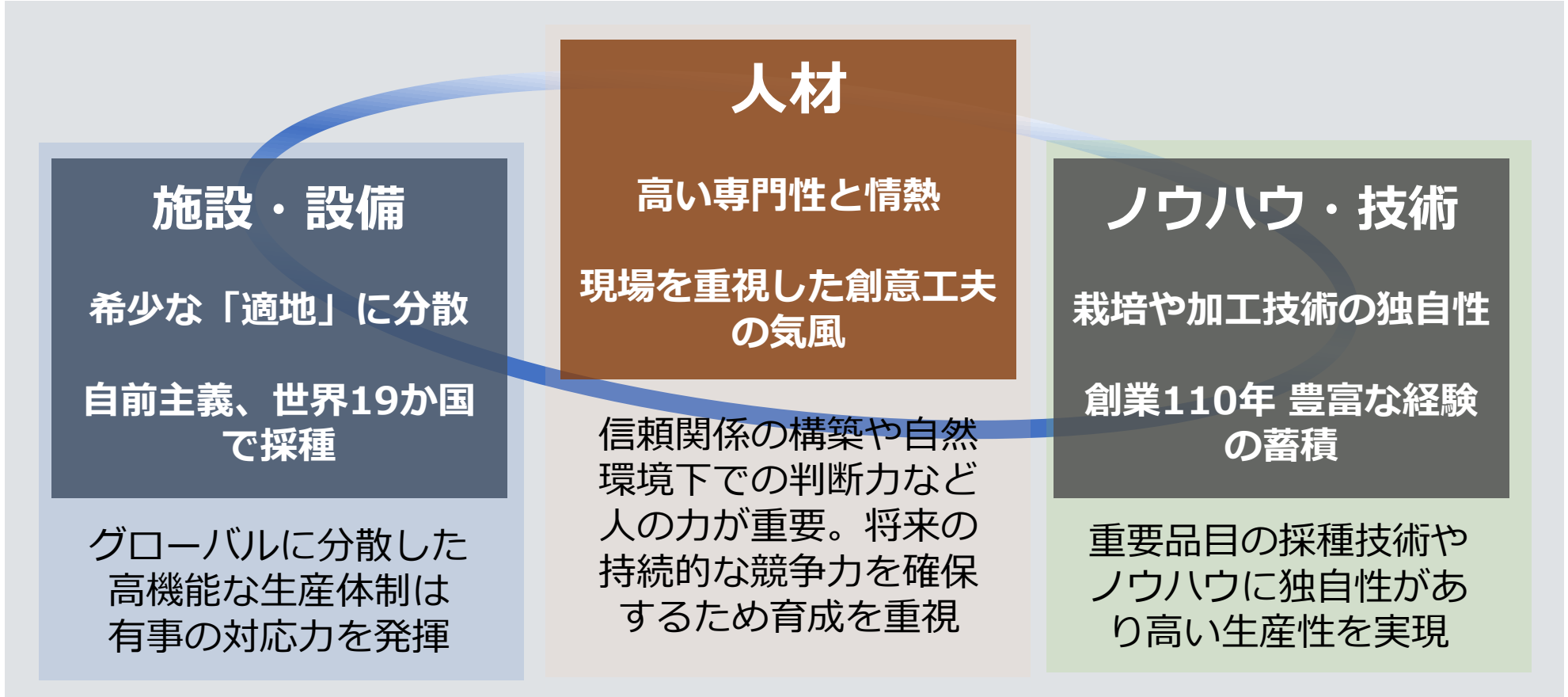


2 Face to Faceを重視

- 現場重視で圃場にて実物を見ながらの意見交換や指導
- グローバルでの交流の活性化

各拠点の技術力アップと交流の活発化、地域の機能強化へ

当社の強みと展望



**施設、人材、技術が整った柔軟で強じんな生産体制を実現
持続的な高品質種子の安定供給体制の構築へ**

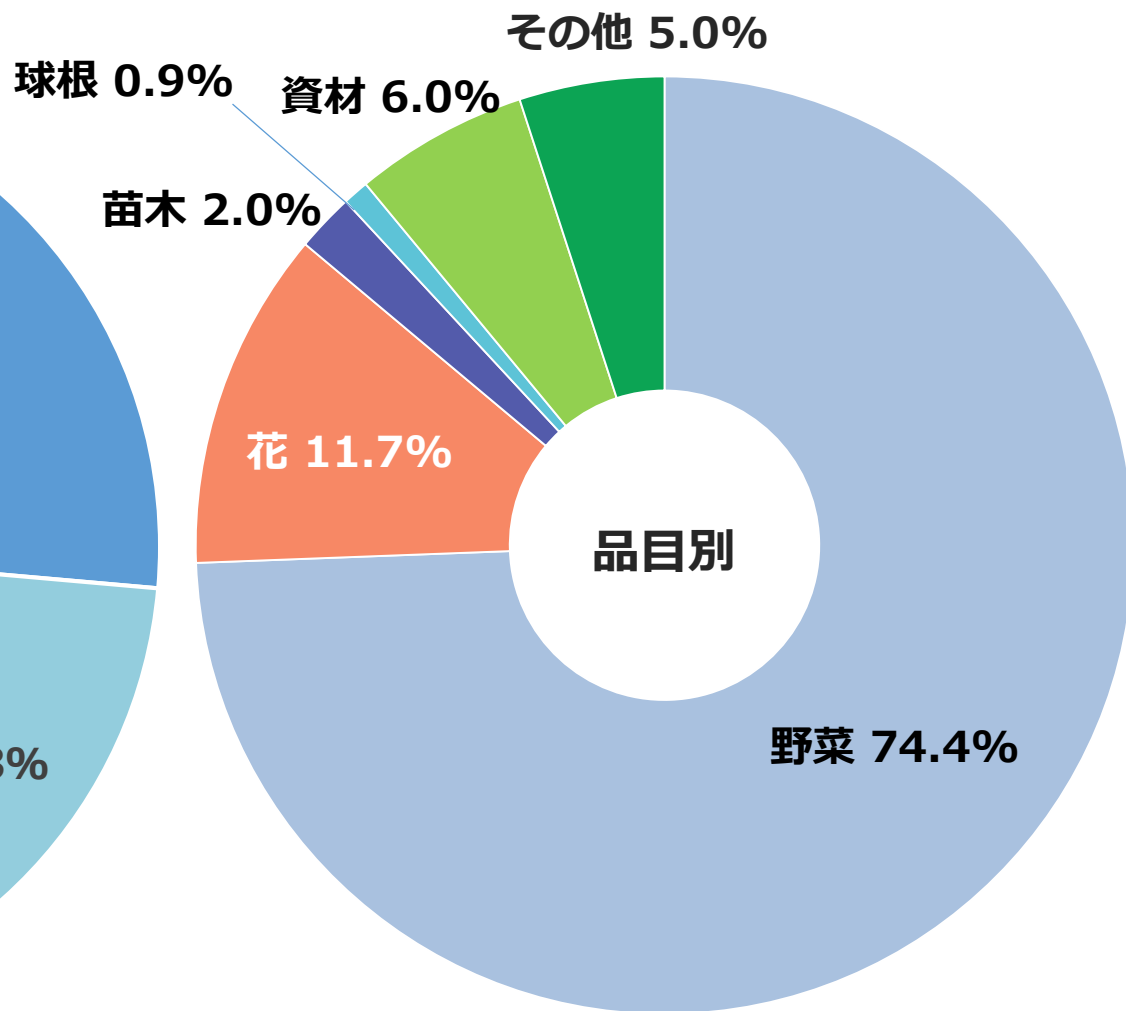
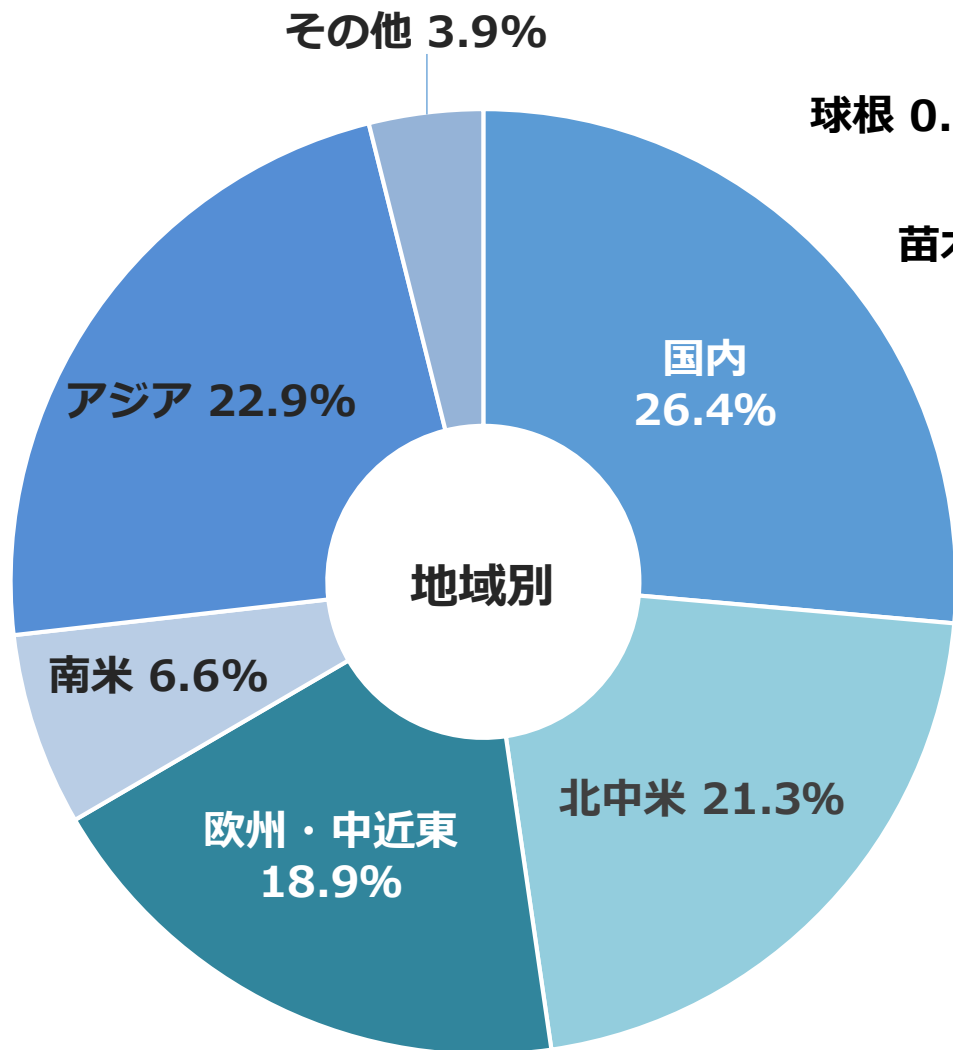
当社の経営理念：三者共栄、三位一体、**三層共生**

三層共生 地球上の自然と、その自然に内包される社会、そして社会に帰属する企業の持続的な共生を目指す



自然、社会と共生し高品質種子の安定供給を続けてまいります

IV 2023年5月期 第2四半期 資料集



品目別地域別売上高（内部取引消去後）の前期比増減

単位：億円	野菜	花	苗木	資材	その他	合計
北中米	18.8	1.0	0.1	△ 0.2	0.4	20.0
欧州・中近東	2.3	△ 0.4	—	—	0.9	2.8
南米	7.7	0.4	—	—	△ 0.3	7.8
アジア	20.1	△ 0.5	△ 0.0	0.0	△ 2.2	17.4
その他地域	2.7	0.0	—	—	0.2	2.9
海外小計	51.6	0.5	0.0	△ 0.2	△ 1.1	50.9
国内小計	△ 0.7	△ 0.6	△ 1.0	2.7	1.5	2.0
合計	50.9	△ 0.0	△ 0.9	2.5	0.5	52.9

2023年5月期 実績 海外販売先別外部売上高（四半期推移）

(単位未満四捨五入)	第1四半期	前期比	増減率(%)	第2四半期	前期比	増減率(%)	第3四半期	前期比	増減率(%)	第4四半期	前期比	増減率(%)	累計	前期比	増減率(%)
北中米(1,000US\$)															
North&Central America	22,491	2,248	11.1%	33,446	△795	△2.3%							55,936	1,453	2.7%
欧州・中近東 (1,000EUR)															
Europe&Middle East	26,032	△1,886	△6.8%	24,522	△818	△3.2%							50,554	△2,703	△5.1%
南米(1,000BRL)															
South America	44,156	1,542	3.6%	49,376	8,159	19.8%							93,532	9,701	11.6%
アジア (100万円)															
Asia	3,006	142	5.0%	5,700	1,597	38.9%							8,705	1,739	25.0%
うち韓国(100万WON)															
Korea included Asia	6,697	△662	△9.0%	6,557	192	3.0%							13,254	△471	△3.4%
うちインド(100万INR)															
India included Asia	340	38	12.5%	479	105	28.0%							819	143	21.1%
その他(100万円) (アフリカ・オセアニア)															
Others (Africa, Oceania)	635	117	22.6%	838	176	26.5%							1,473	293	24.8%

2022年5月期 実績 海外販売先別外部売上高（四半期推移）

(単位未満四捨五入)	第1四半期	前期比	増減率(%)	第2四半期	前期比	増減率(%)	第3四半期	前期比	増減率(%)	第4四半期	前期比	増減率(%)	累計	前期比	増減率(%)
北中米(1,000US\$)															
North&Central															
America	20,242	2,626	14.9%	34,241	6,149	21.9%	37,316	4,524	13.8%	43,588	4,278	10.9%	135,387	17,578	14.9%
欧州・中近東															
(1,000EUR)															
Europe&Middle East	27,918	3,859	16.0%	25,340	1,738	7.4%	23,977	651	2.8%	31,635	1,055	3.4%	108,869	7,303	7.2%
南米(1,000BRL)															
South America	42,614	4,076	10.6%	41,217	△ 828	△2.0%	44,273	3,500	8.6%	46,173	3,610	8.5%	174,278	10,359	6.3%
アジア (100万円)															
Asia	2,863	220	8.3%	4,102	764	22.9%	2,513	330	15.1%	3,986	266	7.2%	13,465	1,581	13.3%
うち韓国(100万WON)															
Korea included Asia	7,359	602	8.9%	6,365	△ 325	△4.9%	4,554	365	8.7%	8,449	1,752	26.2%	26,727	2,393	9.8%
うちインド(100万INR)															
India included Asia	302	63	26.1%	374	22	6.3%	187	△ 7	△3.6%	110	45	68.2%	974	122	14.4%
その他(100万円)															
(アフリカ・オセアニア)															
Others (Africa, Oceania)	518	39	8.1%	662	△ 6	△1.0%	689	52	8.2%	786	68	9.5%	2,655	153	6.1%

本プレゼンテーション資料には、株式会社サカタのタネの業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。

また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的风险や不確実な要因も含まれています。そのため、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、そのほかの経済・社会・政治情勢などのさまざまな要因により記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

不確実性および変動要素全般に関する詳細については、有価証券報告書、決算短信などをご参照ください。